



大正五年四月六日第三種郵便物認可 大正八年一月二十七日印刷納本(毎月一回一日發行)

# 哲學研究

第四卷 第二冊

第三十五號

大正八年二月一日發行

經驗内容の種々なる連続……………文學博士	西田幾多郎
白・灰色及び黒の兩眼視現象通論……………	……………
……………	文學士 黒田源次
心理學と客觀的方法(完結)……………文學士	檜崎淺太郎
エミール・ブートル……………文學士	勝部謙造
中島教授薨去……………文學博士	藤井健治郎
□ 繪	
故中島教授肖像……………	……………
故ブートル教授肖像……………	……………

京都帝國大學文學部  
京都哲學會





の客観化はひとり藝術に於てのみ可能であつた。象徴とは實に此融一者の完全なる表現を意味するのである。藝術は神の完全なる客観化である。象徴の意義は神秘なる生の神秘なるがまゝに眺められた生の意義である。シエリングの哲學は融一者が己を語りんとする種々なる展相の描寫であつた。君の哲學はシエリングによつて自己を見んとする君の苦悶に外ならない。併し君の生は此力を無視するまでに暗く且神秘なるものであつた。君は遂にあゝいつの目かこの罪の姿は見えん。

神のみ知れるこの罪の

せんすべもなきはかなさや

と歌ふに至つた。生は餘りに暗黒にして残酷である。それは君にとつては一の罪業であり一の宿命であつた。之を見んとする君は時に力弱き努力の故にたゞ聲をのみて泣くより外に仕方がなかつた。

あゝあゝおそろしき秘密のまゝ、

うたむとする秘密のまゝ、

ふるへながらこゑをのみて、

ただひとり泣きををのみ……

君の生は君自らにとつても遂に秘密であつた。僅に遺稿によつて君の生涯を見んとする我々にとつてはそれは更に更に大なる秘密

でなければならぬ。「哲人プルノー」と此遺稿は君の暗き生涯をかたどる二の象徴である。

此遺稿には「シエリングの象徴思想」といふ論文の外に「詩歌の眞髓」「神秘主義の爲に」といふ二の詩論と「近代神秘思想」「近代的博愛」といふ二編譯とそれから若干の詩歌とが收められてゐる。「プルノー」も「遺稿」も共に故人の親友矢野氏の校訂によつて世に出ることができた。矢野氏の献身的な好意に對しては我々は實に感謝の辭を知らない。此の如き多くの親友を持ち得て岡本君は其點に於てのみ幸福な人であつたと言はねばならぬであらう。(山内得立)

因に此書は非賣品であるが今回二百部に限り増刷して希望者に實費を以て直接に配布する由

一 申込所 東京神田區表神保町館修文内星野敬一宛

京都文科大學哲

宛

一 申込期日 三月末日

一 豫約金 壹部貳圓 送料拾貳錢

一 配布期日 四月中旬

## 寄贈書籍雜誌

岡本春彦遺稿

文學士矢野禾積編

編者

哲學雜誌、思潮、丁酉倫理講演集、心理研究、六合雜誌、東洋哲學  
 無盡燈、東亞之光、六條報、早稻田文學、文化運動、學校教育、  
 教育、内外教育評論、國民教育、教育學世界、教育界、教育研究、  
 教育時論、現代教育、東京教育、京都教育、兵庫教育、奈良縣教  
 育、靜岡縣教育、滋賀縣教育會雜誌、岐阜縣教育、三重教育、愛  
 知教育雜誌、長崎縣教育會雜誌、都市教育、信濃教育、佐賀縣教  
 育、藝備教育、宮城教育、愛媛教育、山形縣教育雜誌。

### 前 號 目 次

ソフィストとソクラテス	文學博士	波多野精一
カントの歴史哲學	文學士	米田庄太郎
黑白系統の兩眼視現象につきて	文學士	黒田源次
「タブー」論	文學士	赤松智城
創造的衝動と生産的衝動に就て	文學士	園 賴三
彙報 新著紹介 哲學研究第三卷目次		

定規文註 廣告 會

一、本會へ入會希望ノ方ハ直接本會宛テニ御申込被下度候  
 一、會員ニシテ轉居セラレタル節ハ直チニ其旨御報知被下度候  
 一、會費ハ振替口座大阪參〇六六參番、京都哲學會宛テニ御拂込被下度候  
 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・交換雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學 文科大學内 京都哲學會  
 振替口座大阪參〇六六參番

冊	冊數	定價	郵	稅
一冊	冊	金貳拾五錢	金壹	受
六冊(前金)	冊	金壹圓五拾錢	不	受
十二冊(前金)	冊	金參圓一不	不	受

廣告知料 一頁 金拾圓 半頁 金六圓

◎會員にあらざる識讀者の御註文及び廣告に關する件は寶文館へ御申込下され度候  
 ◎本誌の御註文はすべて代金郵稅共前金にて御送り下さるべく候  
 ◎振替貯金にて御送金は(東京二八〇番)寶文館宛に願上候  
 ◎前金切れの場合に「前金切」の印章押捺致すべきに付直に御拂込下され度候  
 ◎見本御入用の場合は金貳拾錢御送り下され度候  
 ◎特に請求書及領收書等を要する場合は郵券三錢御送付下され度候

大正八年 一月二十七日印刷納本  
 大正八年 二月 一日發 行  
 第三十五號 第四卷 第貳册



右代表者 寶 嚴 方 治  
 編輯者 京都帝國大學文科大學内 京都哲學會  
 發行者 大 葉 久 吉  
 印刷者 青 柳 十 一 郎  
 印刷所 秀英舍第一工場

發行所 東京日本橋區本石町三丁目 (振替口座東京二八〇番) 寶文館

發賣元 東京市日本橋區本石町三丁目 寶文館  
 大阪市東區淡路町四丁目

賣捌所

(東京) 東京堂、東海堂、北隆館、  
 良明堂、上田屋 (大阪) 盛文館  
 (京都) 寶文館 (神戸) 寶文館

◀ 著名の讀必下刻 ▶

高田保馬著

最新刊

社會學的研究

著者、社會學の研鑽に従事せらるゝこと既に十年、常に斯學の純理に没頭して、其發達の趨勢に後れざらんと努力せられたり。

本書は其間に成れる苦心の勞作十二章を收む。冷靜氷の如き理論に包むに、人類の愛、詩的情熱を以てする所、一卷の特色にして、又充分に著者の學風を味ふに足るべし。

特に又大戰の終結と共に、世界に於ける社會組織の變革將に近からんとす、此時勢の必要に應じて、社會の根本的性質を明かにし、社會的思潮の眞髓を味はむとする人士にとりては、最も有益なる大文字なり。

本書の要目

一 二 三 四 五 六

一 社會進化論の性質  
 二 社會法則の性質  
 三 統計的方法と歸納法  
 四 生死減少逆行の法則  
 五 貧富と出生率  
 六 分離論

七 八 九 十 十一 十二

七 社會的定量的法則  
 八 分業について  
 九 家族の將來と社會の團結  
 十 資本家的集積說の研究  
 十一 優生學是非  
 十二 現代文明の迷妄—生産政策の否定

布裝全壹册  
 定價金貳圓  
 送料金二十錢

哲學研究

第三十五號

第四卷

大正八年

二月一日發售(一月發售)

(大正五年四月六日)

定價金貳拾五錢

大坂市東區淡路町番三

寶文館

東京市本區橋本町番〇八二